

# 接続料の算定に関する研究会（第14回）

2018年9月26日

東日本電信電話株式会社  
西日本電信電話株式会社

# PPPoE接続及びIPoE接続に関連する 取組の状況について

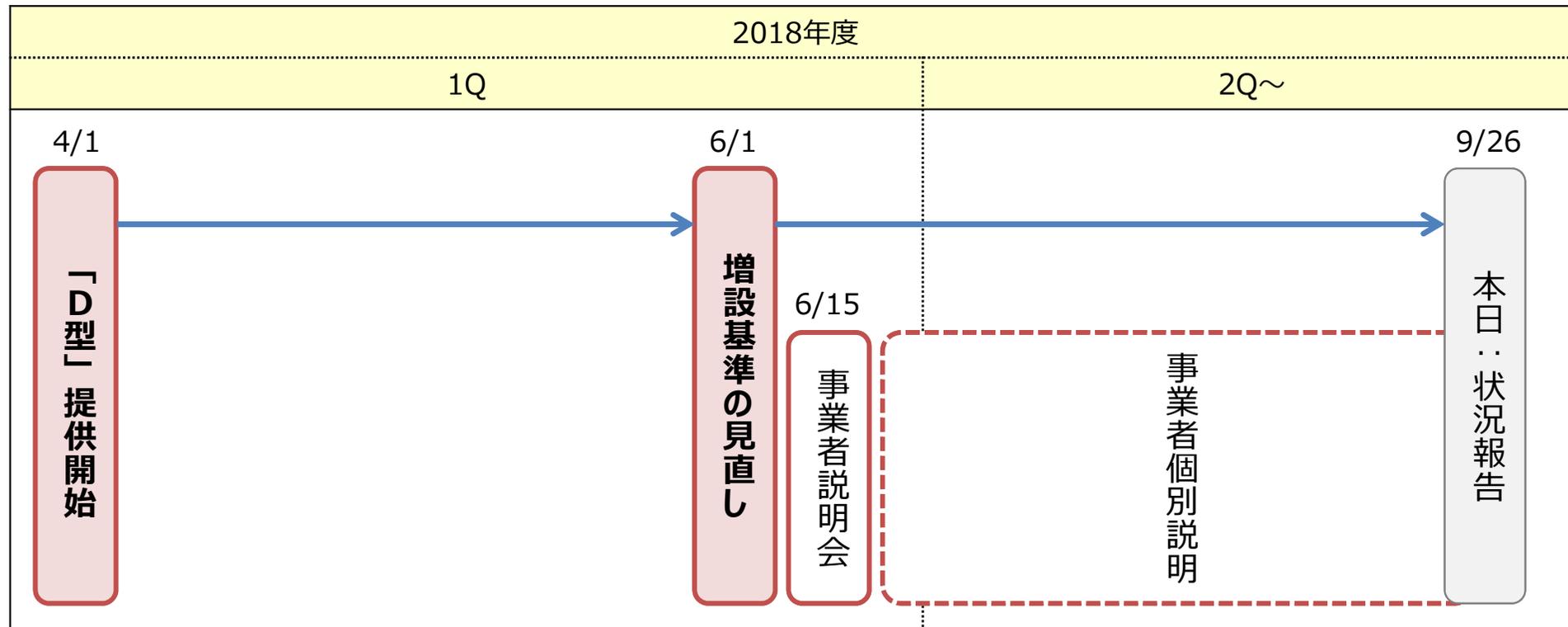
# 本日の説明事項

1. PPPoE接続に関する当社の取組状況
2. 増設基準見直し後の状況
3. NGNにおけるインターネットトラヒックの動向
4. PPPoE接続における時間別トラヒックの動向
5. 増設基準の見直しに伴う今後の取組スケジュール
6. IPoE接続に関する措置要請事項
  - 6-1. 接続用ポートの小容量化
  - 6-2. POIの増設状況
  - 6-3. その他のIPoE接続に関する情報開示等の取組

# 1. PPPoE接続に関する当社の取組状況

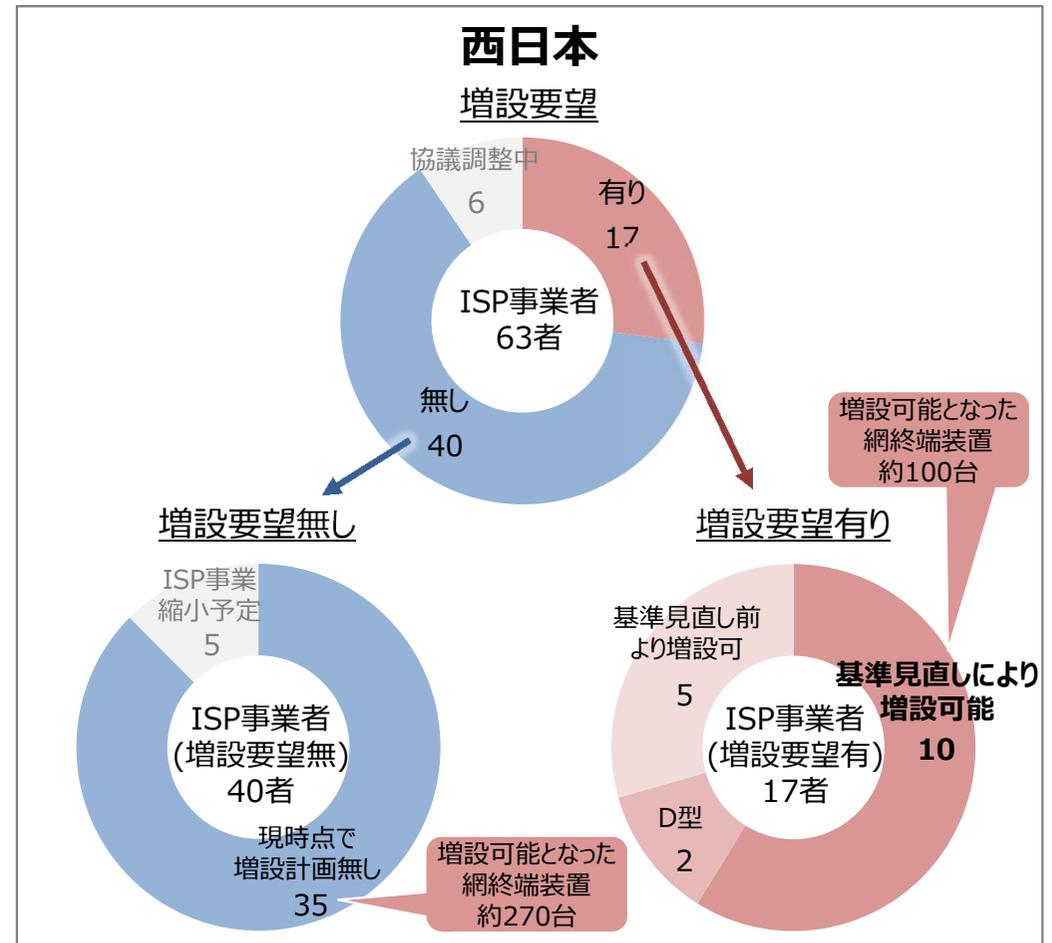
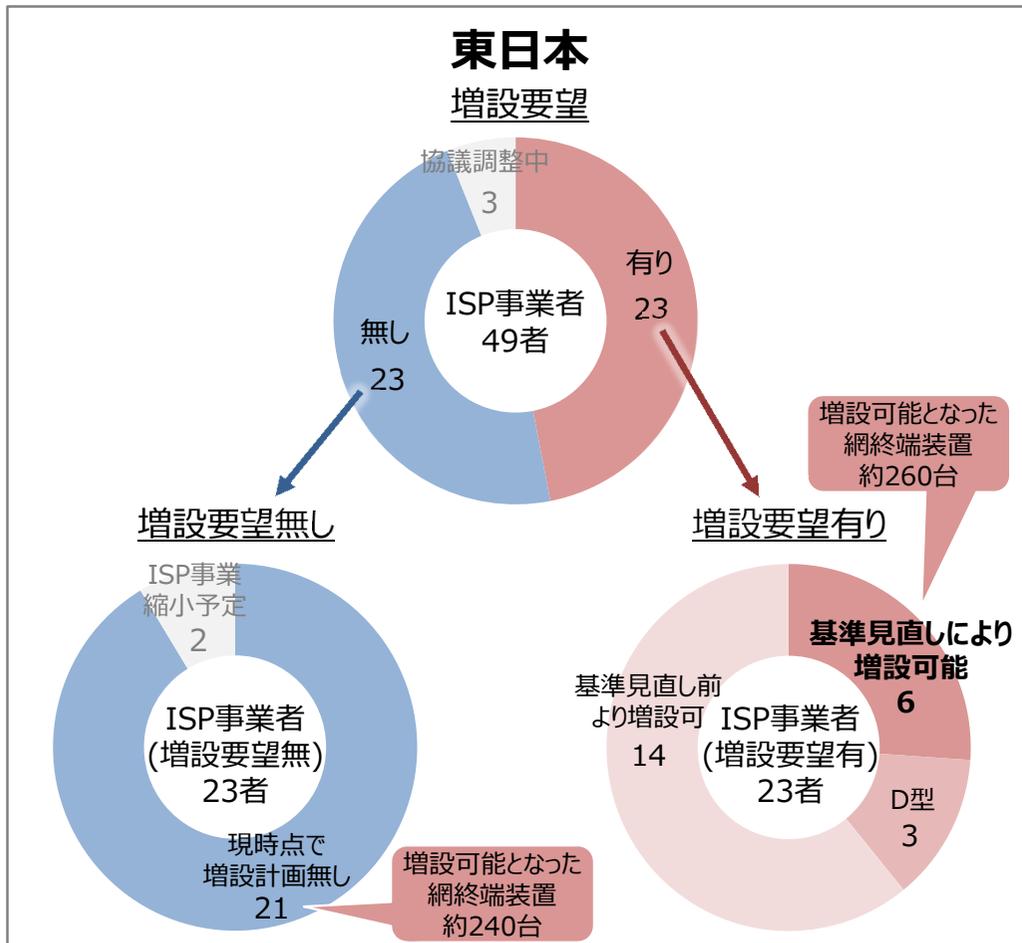
- 当社は、これまでもISP事業者様のニーズに応じた装置の大容量化等、様々なメニューを提供してきており、本年4月には「自由に増設が可能となる網終端装置メニュー（D型）」を提供開始しました。
- また、6月には従来より提供している網終端装置メニューの**増設基準の見直し（基準セッション数の引き下げ）**を行い、現在当社と直接接続する**全ISP事業者様への個別説明を進めています**。

〔直近の取組状況〕



## 2. 増設基準見直し後の状況

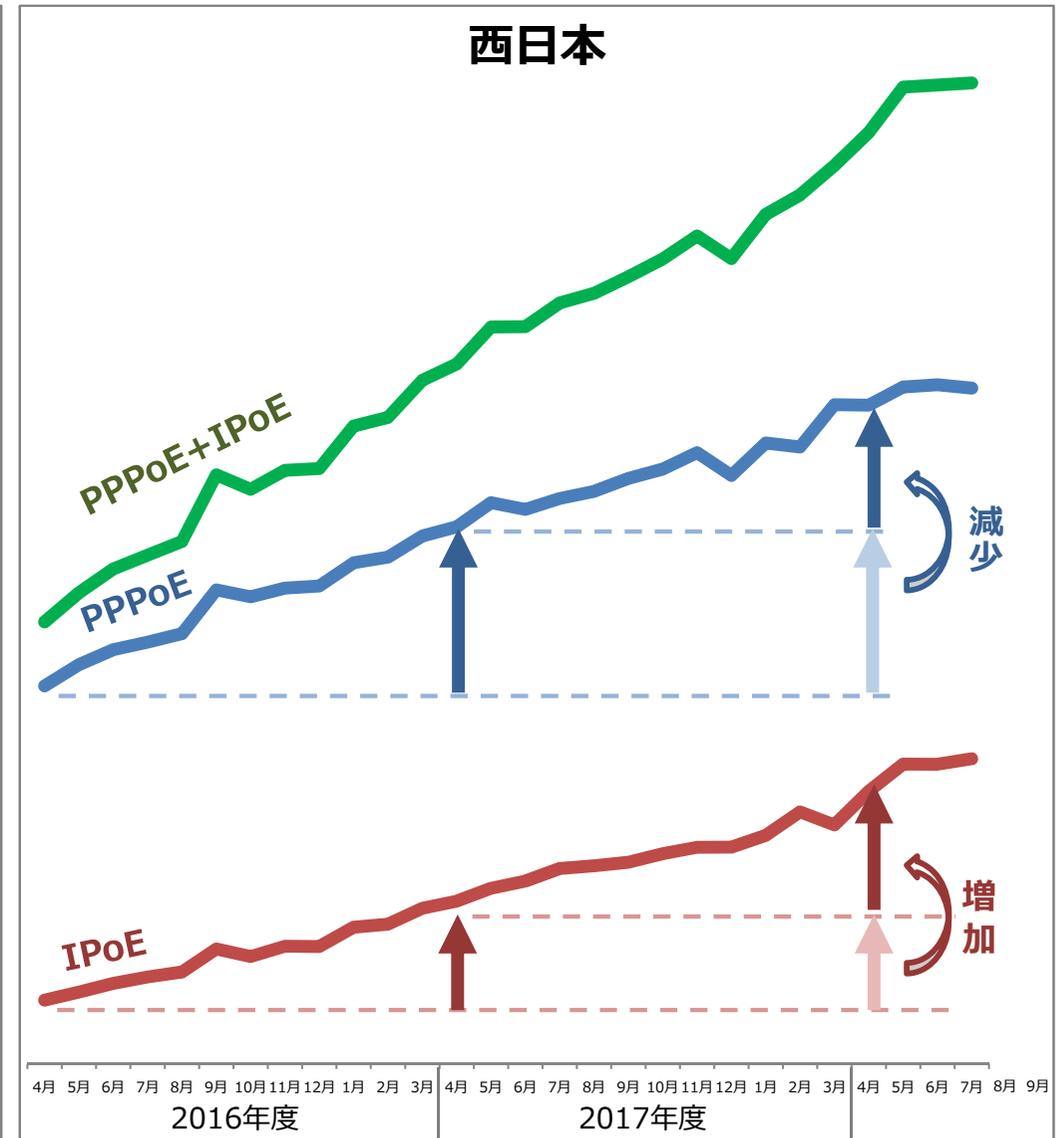
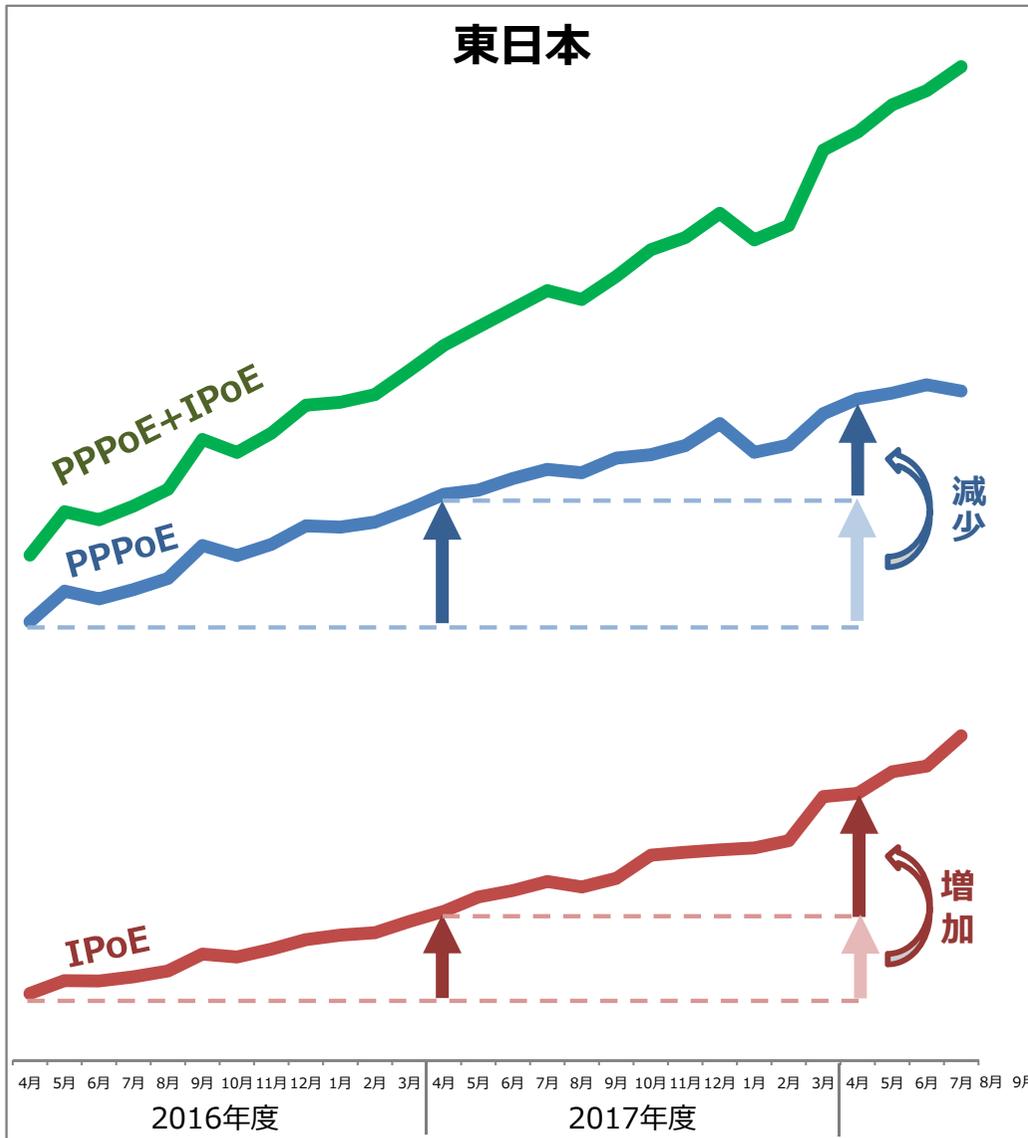
- 当社と直接接続するISP事業者様に対し、増設基準の見直しに係るご説明及び増設要望等のヒアリングを実施しています。
- 増設要望に対しては、今回の基準見直しも含め、解決策の提示が行えており、ご要望をいただいた東西計40事業者のうち16者（うち5者は東西で重複）について、今回の基準見直しにより増設可能となりました。



※数値はISP事業者数。NTT東日本、NTT西日本双方と接続いただいているISP事業者様については、東西毎にカウント。

### 3. NGNにおけるインターネットトラフィックの動向

- 直近約2年でのNGNにおけるインターネットのピークトラフィックの伸びについて、**PPPoE接続は減少傾向、IPoE接続は増加傾向**となっています。

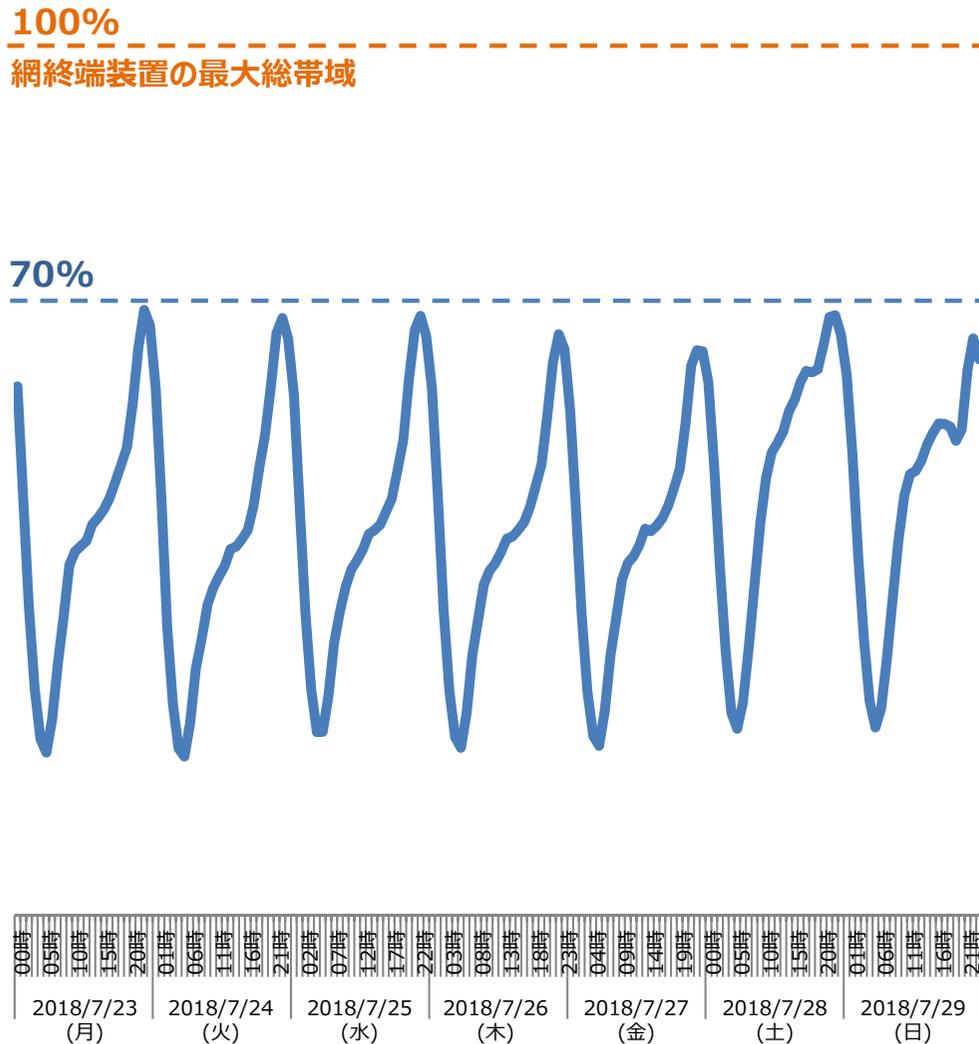


※上記は、NGN用網終端装置又はGWルータを疎通するダウンロードトラフィックについて、月毎の最繁時間のデータをプロットしたグラフ。

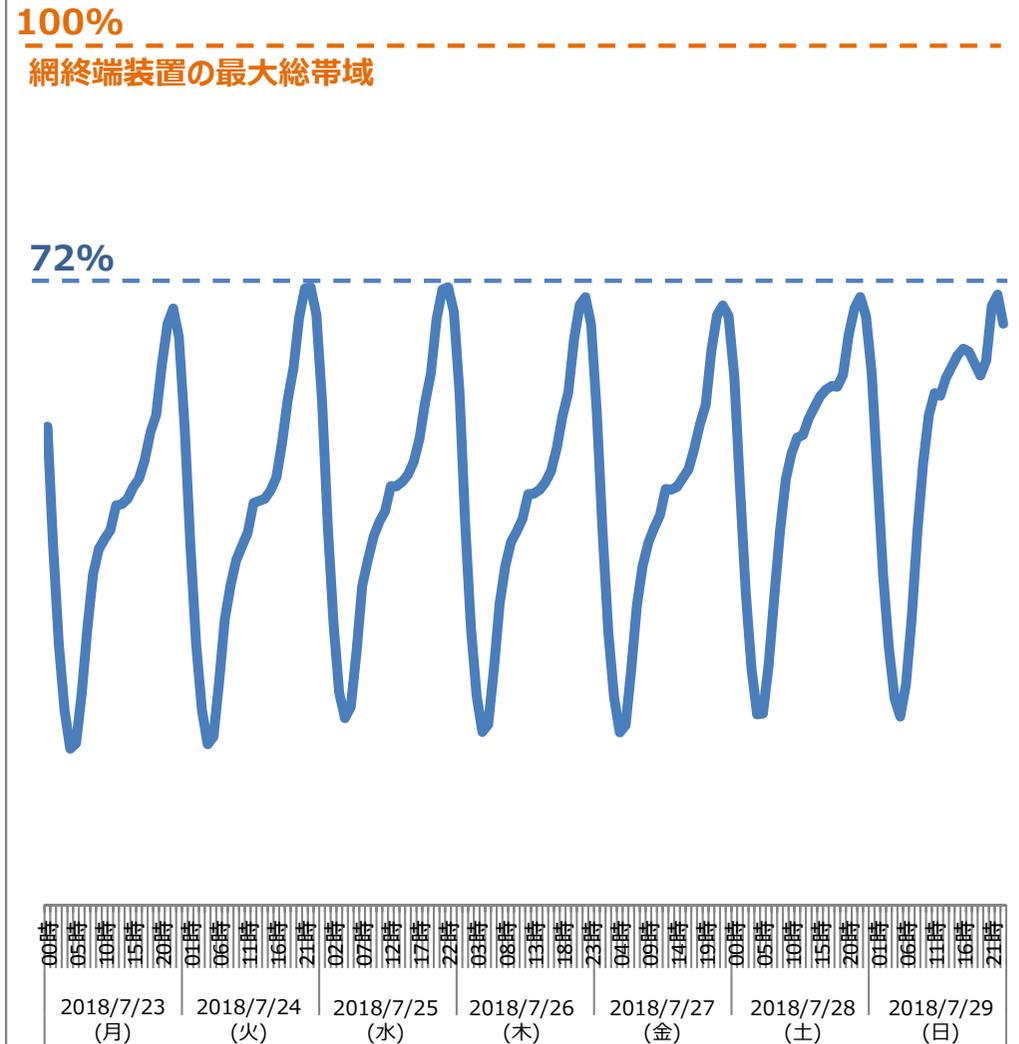
# 4. PPPoE接続における時間別トラフィックの動向

■ 2018年7月下旬のPPPoE接続における時間別トラフィックは、網終端装置の最大総帯域に対し、最も使用されている時間帯においても余裕があります。

東日本



西日本



※上記は、NGN用網終端装置を疎通するダウンロードトラフィックについて、1時間毎のデータをプロットしたグラフ。

# 5. 増設基準の見直しに伴う今後の取組スケジュール

- 本研究会においては、マクロでのトラフィックデータや個別協議の状況等について、可能な範囲で提示していく考えです。
- 一方で、装置増設のタイミングやトラフィックの状況に対する評価は、ISP事業者様毎のサービスポリシーにより、区々であるため、ISP事業者様毎の状況に応じた課題を協議により解決していくことが重要と考えます。

〔取組スケジュール〕

	2018年							2019年						
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
本研究会														
ISP事業者様との取組	▲増設基準の見直し													
	適宜増設申込							増設効果検証						
	各ISP事業者様との個別協議							各ISP事業者様との個別協議						
	適宜、協議の継続							適宜、協議の継続						

## 6. IPoE接続に関する措置要請事項

- 当社としては、引き続き、ISP事業者様におけるIPoE接続への参入可能性確保に向けて、協議を行っていく考えです。

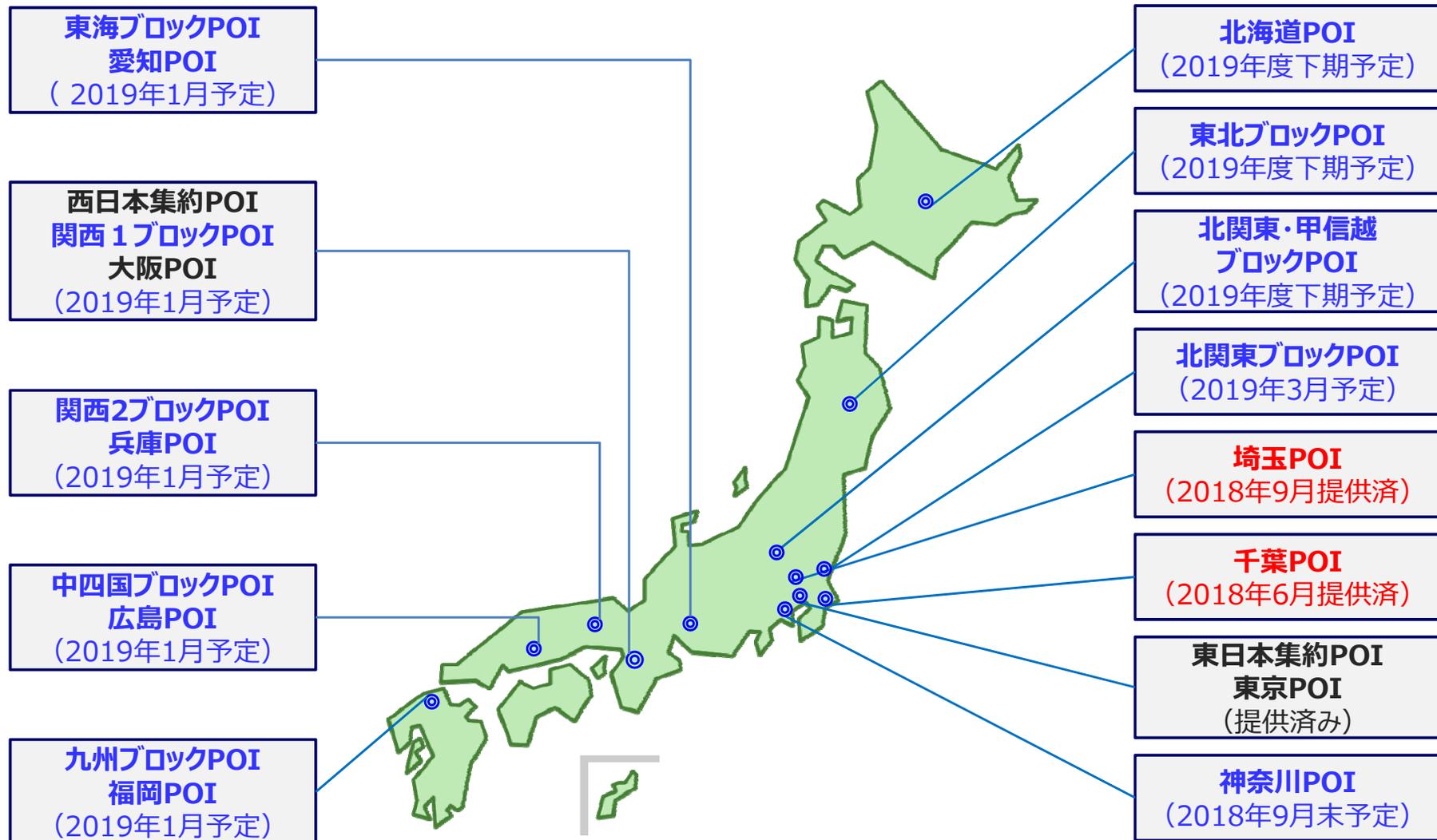
〔現在の取組状況〕

<b>直接接続事業者の上限 (16者上限)</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 当社<b>収容ルータの性能上限に起因する制約</b>であり、これを拡大するためには収容ルータの更改が必要です。</li><li>• 収容ルータの更改には多大な費用が必要となることから、<b>改善することは困難な状況に変わりはありません</b>。</li><li>• その制限を緩和する場合には、<b>事前に自主的に情報開示する考え</b>です。</li><li>• 2017年10月の8者目以降、IPoE接続に関する新規申込は受領していません。</li></ul>
<b>接続用ポートの小容量化</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 関門系ルータ（GWルータ）のポートの一部を使うことで、<b>技術的には実現可能な見込み</b>です。</li><li>• その後、接続事業者・関係団体様からの要望に応じ、IPoE接続に関する説明会を開催しています。</li><li>• 今後、<b>要望に応じて金額・条件等を具体化の上、協議を行う考え</b>です。</li></ul>
<b>POIの増設</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 接続事業者様との協議の結果、開設することとしたPOIについては、後述のとおり、順次開設しています。</li><li>• 今後、要望がある場合についても、当該事業者様と協議を行っていく考えです。</li></ul>



## 6-2. POIの増設状況

- 下記のとおり、順次POIを開設しているところです。引き続き、要望がある場合については、当該事業者様と協議を行っていく考えです。



※ ( ) 内は、提供予定時期

# 6-3. その他のIPoE接続に関する情報開示等の取組

■ IPoE接続に関し、情報開示の充実化に向けた取組や、新たに参入を検討する事業者様の予見性確保に努めています。

### IPoE接続に関する情報

本ホームページでは、IPoE接続に関する情報等を提供しております。

#### 情報開示のご案内

※ 下記の情報閲覧にはID・パスワードが必要です。

▶ [IPoE接続に関する情報\(ログインページ\)](#)

- 各種資料等
- 各種申込書
- 相互接続点(POD)ビルの情報
- ゲートウェイルータに係る料金額(按分後月額料金等)

(※上記の開示情報の閲覧は、弊社との「守秘義務契約」又は「相互接続協定締結」の電気通信事業者様とさせていただきます。(ID、パスワード等の登録が必要です。))

---

#### IPoE接続事業者の一覧 ※平成30年6月5日現在

- ▶ [BBIX株式会社](#)
- ▶ [インターネットマルチフィード株式会社](#)
- ▶ [日本ネットワークインテグレーション株式会社](#)
- ▶ [ビッグロップ株式会社](#)
- ▶ [株式会社朝日ネット](#)
- ▶ [エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社](#)
- ▶ [フリービット株式会社\(予定\)](#)
- ▶ [アルテリア・ネットワークス株式会社\(予定\)](#)

※ IPoE接続を行なっている協定事業者(当社からIPoE接続に係る接続申込みの承諾を受けている接続申込者を含みます。)の数は8となります。

---

#### ゲートウェイルータに係る網使用料の料金額

▶ [ゲートウェイルータに係る網使用料の料金額\(平成30年9月12日時点\) \[391KB\]](#)

上記については現時点の最新の利用ポート数に基づき算定したゲートウェイルータに係る網使用料の料金額(按分前月額料金)について開示しております。  
 (接続約款に記載のある料金額については、平成30年4月1日時点における利用ポート数に基づき算定した料金額を記載しております)

[▶ ページの先頭へ](#)

【ローミング申込手続等へのホームページリンク掲載】



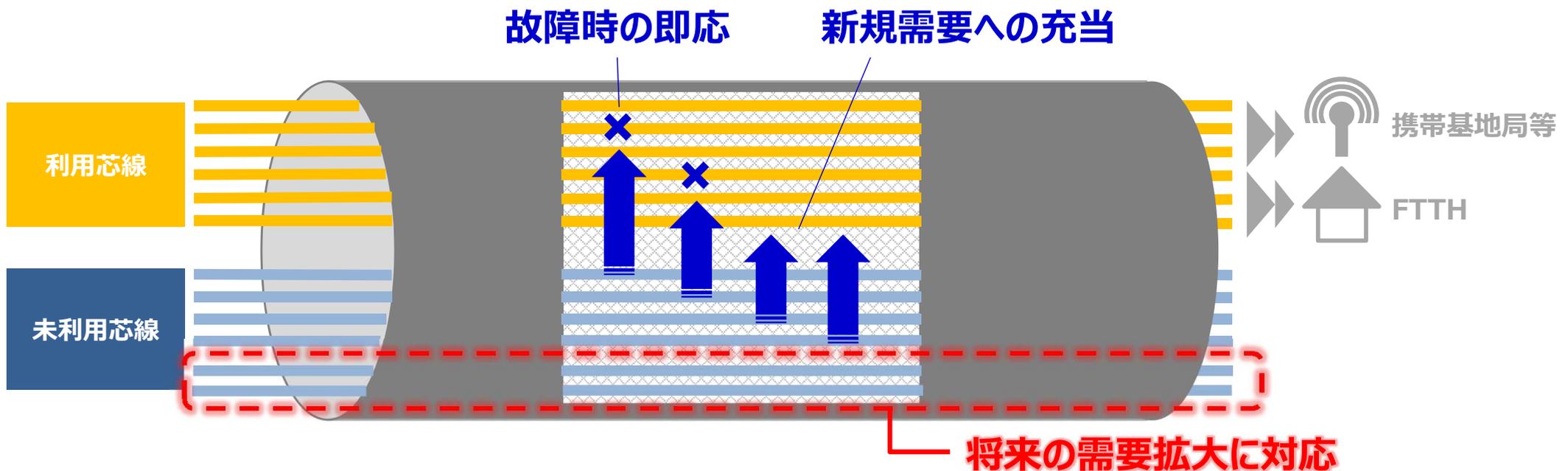
GWルータに係る網使用料の料金額を開示

※NTT西日本のホームページにおいても同様の情報を開示中

# 加入光ファイバ接続料に関連する 取組の状況について

# 将来需要に備えた光化投資

- 当社は光ファイバ設備の構築にあたり、以下の需要に対応するために未利用芯線（将来の利用を待機している芯線）を含め、全体として低廉なコストとなるよう効率的な設備投資を実施しています。
  - ✓ 当社及び接続事業者様のお客様に迅速かつ円滑なサービス提供や故障発生時に不良となった芯線の切り替えに即応するための短期的な需要。
  - ✓ 台風・地震等の災害時対応、IoTの進展・5G等の技術革新や環境変化等による将来拡大する需要。



# 効率的な光化投資

- 光ファイバケーブルについて、埋設工事が必要な地下ケーブル、架渉工事が必要な架空ケーブルのいずれにおいても、敷設コストは規模の経済性が強く働くため、芯線数の少ないケーブルに比べて、多いケーブルの方が一芯あたりの投資額は安価となっています。
- 従って、将来需要や故障対応等を予め見積もった上でケーブルを敷設することの方が、需要発生都度、繰り返しケーブルを敷設することよりも、効率的な投資となります。

構成員限り

# 未利用芯線のレートベース上の扱い

■ 接続料原価に含まれる報酬額は、設備を構築する上で必要な資金を調達するための資本コストであり、設備を維持・運営するために必要不可欠なものです。

■ したがって、たとえ投資した設備の一部であっても、接続料算定上のレートベースから除外すると、設備構築事業者は投資に係わるコストを適正に回収できなくなります。

その結果、将来を見据えた基盤構築に向けた設備投資インセンティブが減退し、新規需要の発生の都度、光ファイバの追い張り又は張替えが生じることになるため、却って光ファイバのコストが上昇するだけでなく、将来のICTインフラの整備が遅れることになると考えます。

■ なお、光ファイバケーブルの利用実態に関する調査については、報告書案で示された考え方を踏まえ、特定の収容ビルにおけるサンプル調査等を行い、次回の研究会において構成員の皆様にご提示する予定です。

# 光ファイバケーブル耐用年数の推計結果について

- 2017年度末データを用いた、光ファイバの撤去率を用いた耐用年数の推計結果については、**報告書案で示された考え方を踏まえ、次回研究会において構成員の皆様にご提示する予定**です。
- 一方、耐用年数の見直しについては、「材質・構造・用途・使用上の環境」、「技術の革新」、「経済的事情の変化による陳腐化の危険の程度」の観点に上記推計結果も含めて、総合的な検討を行っていきます。  
検討の結果、光ファイバの耐用年数見直しが必要と判断すれば、早ければ2019年度からの見直しも含めて検討していく考えです。